



高齢者施策の拡充

2月市議会で2022年度予算が可決しました。その中から高齢者施策の拡充、稲越の信号機設置についてお知らせします。

認知症地域支援員の増員

認知症の発症や進行を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活が過ごせる。そうした社会の実現に向けて、地域で活動する専任の認知症地域支援推進員を今年度3人増員します。市内高齢者サポートセンター7箇所に1人ずつ、合計7人を配置します。

●地域支援推進員の活動内容

認知症の本人や家族の視点で、医療・介護の連携の促進、正しい理解の拡大、社会参加・交流の場の拡大、認知症の勉強会、出張相談会、介護事業者との連携で認知症カフェの開催などにとりくみます。



高齢者世帯等ごみ出し支援

高齢者や障がい者、介護を必要とする世帯で、ごみを集積所に運ぶにことが困難な方に対し、玄関先までごみの収集に伺います。また、ごみが出ていなかった場合の安否確認もおこないます。

●対象者

ひとり暮らしで、要介護1～5の認定を受けている方、身体障害者手帳の2級以上の方など。

●支援の流れ

- ・ごみが出ていた場合→作業員が収集
- ・ごみが出ていない場合→作業員が呼び鈴を鳴らし、応答がない場合→作業員が清掃事業課へ連絡→ケアマネジャーや親族等が安否確認

(担当：環境部 清掃事業課)



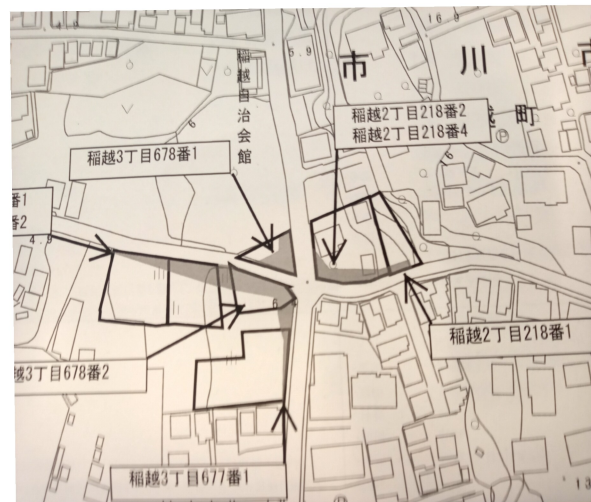
稲越の信号機設置へ前進一用地取得費を予算計上

この交差点は、朝夕の通勤通学時間帯に交通量が多く、特に稲越小学校の通学路であるため、登下校時には多くの児童が通行しています。平成30年6月の外環道路、国道298号開通により自動車の交通量はますます増えています。交差点で停止せず、そのまま通過する自動車もあり、大変危険な状況です。請願書「稲越町に信号機の設置を求める請願」が市議会に提出され、2019年2月市議会で、全会一致で採択されました。

今年度、信号機設置に向け、交差点周辺の用地取得費を計上しました。右の図が用地取得範囲です。



稲越3丁目、2丁目交差点



道路舗装整備される

宮久保6丁目、市民から寄付された市民広場の道路舗装・側溝整備が3月に完了しました。(写真)

ここは、道路の舗装が凹凸で市民が歩きづらい場所でした。また、雨が降ると下貝中周辺の道路に水がたまるなどの問題がありました。

日本共産党は地域要望を受け、市に道路舗装改善を求めてきました。



東松戸病院・梨香苑 (高塚新田)

廃止の理由は2点。経営改善には至らず、コロナ禍で経営は厳しさを増している。老朽化と耐震性の問題があり建て替えが必要だが財政上困難としています。

昨年8月の新聞

報道で廃止方針が知られるという事態に市民は驚きです。

1月実施したパブリックコメントでは、市民の意見の中で90%の人が廃止ではなく存続を求めています。市民への説明も意見把握もありに軽視されています。

東松戸病院・梨香苑は1991年、「松戸市の急速な高齢化に備えた保健・医療・福祉」の連携した包括的な医療の拠点」として開院しました。当時の高齢者数は3万数千人から現在13万人と4倍近くに増加。県は高齢者の受け皿となる施設は東葛北部地域で3千床不足としています。

地域の根ざして一連のケアができる公立病院の存在は、地域住民(市川市民も)にとつてなくてはならない施設です。

東松戸病院・梨香苑の廃止条例賛成多数で可決 (松戸市議会)

東松戸病院及び梨香苑(介護老人福祉施設)を2024年3月末で廃止する条例が、松戸市議会は賛成多数で可決。日本共産党は、反対の立場で討論を行いました。その要旨を紹介します。

無料法律相談会

【相談日】 【担当弁護士】

5月10日(火) 土居太郎

6月14日(火) 土井太郎

午後2時から5時

【場所】 第一庁舎6階共産党控室へ

※相談したい方は、事前の予約が必要です。党市議か市役所(電話334-1111) 共産党控室へご連絡ください。

斎藤和子



参議院千葉選挙区党予定候補

浅野ふみ子



県議予定候補(市川市選挙区)

平和・命守る日本共産党躍進を

参院比例チーム

5人全員を国会へ! 比例650万票 得票率10%以上をめざします!



大門みきし 現

田村智子 現

にひそうへい 元

いわぶち友現

たけだ良介 現

編集後記

▼ロシアによる連日のウクライナ侵略には目を覆うばかりです。国政に目を向けると歴史の逆流の動きもあります。ロシアの「戦争犯罪」を理由に、核の共有、「憲法9条に自衛隊を明記すべき」などの発言。また、エネルギー供給不足で原発の再稼働を進めるなど、参院選は戦争か平和かの闘いです。絶対に負けられない思いです。

お気軽に相談を

仕事くらしの悩み

メール: kyousantkaneko@yahoo.co.jp

連絡先 金子貞作 337-6184